

こどもおぢばがえり

今年の夏は、ニューヨーク天理文化協会（以下、文化協会）の子供日本語クラスの生徒と共にこどもおぢばがえりに参加した。7月23日から30日まで、アメリカ・カナダ団の一員としての参加であった。参加者は子供8名、保護者6名、スタッフ4名の計18名で、内10名が初めておぢばを訪れた。文化協会のこのおぢばがえりは、3年前から子供3名で始まり、以後毎年続けられてきた。

きっかけとなったのは、深谷洋アメリカ伝道庁長からの一言で、「文化協会は、もっとお道の色を前面に出した活動をしていったらどうか」と提案されたことによる。

現在、文化協会の子供クラスには約200名の生徒が日本語を勉強しているが、その内99パーセントが教外の子供達になる。それ以来、数年かけて、こどもおぢばがえり体験クラスや鼓笛活動、おとまり会、その際の子どもおぢばがえりの勧誘などが行われてきた。スタッフの熱意と尽力もあり、毎年楽しみに参加する子供たちから「来年もぜひ参加したい」という喜びの声も聞かれる。これからも、より多くの子供たちにお道の行事に参加してもらえることを楽しみにしている。



こどもおぢばがえりおやさとパレード出演前に

天理大学ニューヨークキャンパス

文化協会は、2010年、天理大学と学術交流提携を交わし、天理大学ニューヨークキャンパスとしての役割も担うことになった。主な内容は、インターンシップ研修（2週間）、日本語教育実習、留学生のお世話取り、集中英語講座（3週間）など。これらの活動に、毎年数名の天理大学生が文化協会での研修を受けている。文化協会とスタッフと共に業務や研修をこなすうちに、お道に興味を持つようになり、大学に戻ってから別席を運びようぶくなった天理大学生もいる。

ニューヨークでの留学先は、ニューヨーク市立クィーンズカレッジである。現地の教会、布教所の一室を借りて滞在している。冬休みなどには、アメリカ各地で留学している天理大学生がニューヨークを訪れ、賑やかになる。半年から1年間のニューヨークでの生活は、彼らにとって、かけがえのない経験になっているようだ。

現在、文化協会の大人クラスでは、約180名の学生が在籍し

ているが、その中から半年または1年間の留学生として、天理大学で2～3名が天理大学で学んでいる。また、天理大学夏期日本語講座にも参加している。

大人クラスの中でも、ニューヨークから夏期講座に参加したのがきっかけとなり、ようぼくとなり、修養科に入学する人も出てきている。おぢばでの経験もまた同様に彼等にとって、忘れたくない貴重な体験となり、喜んで戻って来てくれる。

青年会・婦人会人材派遣

青年会本部と婦人会本部から、日本語講師の人材が派遣されている。現在青年会は第15次が1名、婦人会は第4次が2名、海外部派遣と現地採用とをあわせて5名が常勤で日本語クラスを担当している。さらに、現地非常勤講師約10名が手伝ってくれている。

文化協会にとっては、このおぢばからの人材派遣生が非常に大切な働きをしている。彼らはニューヨークセンターに住み込み、朝の神殿掃除から一日が始まる。彼らはセンターでひのきしんに伏せこんで、午後から文化協会に勤めている。彼らが明るく親切に日本語を教える姿は、お道の陽気な雰囲気醸し出し、学生たちにも伝わっている。それは、また、現地の青年会や女子青年たちにもとてもいい影響を及ぼし、お互いに切磋琢磨しているように思われる。ニューヨークのお道の若い人たちが元気で勇んでいるのも、少なからずおぢばからの派遣生のお陰でもあると感謝している。

彼らが学生をセンターの月次祭や行事に誘ってくれるので、学生とセンターとの繋がりも深まってきている。センターの月次祭には、文化協会の学生や関係者で参拝者の一割ぐらいを占めるようになってきているほどだ。おつとめ奉仕者になったり、女子青年委員長を務めてくれる人も出てきている。

今年の夏は、こどもおぢばがえり以外にもおぢばがえりした人が多く、把握しているだけでも9名の学生たちがそれぞれ帰参した。彼らは、文化協会の元先生方にも会って、神殿案内もしてもらおうなど、親交を深めた。

現地教内のサポートを得て

ここ数年、文化協会の受付と事務局は、現地の青年会層のスタッフが担当してくれている。そして、子供クラスの非常勤講師として、主に教内の女性が教えてくれている。

受付には、学生はじめ、毎日さまざまな人が訪れる。学生とスタッフの年齢層が近いこともあり、そこで、いろいろな話が交わされ、悩みごとの相談やお道の話も出たりすることもある。現地のスタッフが受付を担当することになってから、お道に興味を持ち入信する人も増えてきている。

そして、女性が子供クラスを教えるようになってから、クラスも安定し、生徒数も増加してきている。クラスを教えるかわら、子育てに悩む保護者と相談している場面をよく見かける。文化協会に携わってくださることによって、スタッフも成人し、育成の貴重な場になっているようにも思う。

これからは、ニューヨーク管内だけにとどまらず、広くアメリカ管内や全教内からのご支援をいただきながら、さらなる人材育成に貢献していきたい。